

報第10号

令和5年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について

令和5年度神奈川県教育委員会表彰（神奈川県優秀授業実践教員表彰）について、神奈川県教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第2項の規定により事務を臨時に代理し、次のとおり被表彰者を決定しましたので、同規則第2条第3項及び教育委員会の指示事項の1の(3)の規定に基づき報告します。

令和5年10月24日提出

神奈川県教育委員会
教育長 花 田 忠 雄

令和5年度神奈川県優秀授業実践教員表彰被表彰者一覧

第1部門 19名（小学校5名、中学校3名、高等学校8名、特別支援学校3名）

	学校名	氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
1	葉山町立一色小学校	コブキ 小吹 リョウ 伶	総括教諭	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間の授業において、地域の特性を活かしながら、探究的な学びとなるように単元構成を考え、地域教育力・地域教育資源を活用した授業実践を行っている。
2	厚木市立毛利台小学校	タカハシ 高橋 リョウタ 亮太	総括教諭	全教科	算数の授業において、児童一人ひとりの特性を理解し、個に応じた声掛けを行いながら、効果的な自由進度学習を取り入れた授業実践を行っている。
3	平塚市立なでしこ小学校	マツオ 松尾 トシノリ 寿憲	教諭	全教科	英語の授業において、児童同士のやり取りの時間をしっかりと確保し、児童が自分の考えや気持ちを伝え合うことができる力を養う授業実践を行っている。
4	小田原市立早川小学校	イシイ 石井 ユウキ 悠季	総括教諭	全教科	算数の授業において、児童の興味・関心を高めるための工夫や、児童のつぶやきから学習問題へと繋げていくなど、児童の思いや考えを大切に授業実践を行っている。
5	大井町立大井小学校	ヤマモト 山本 ジュンイチ 順一	教諭	全教科	算数の授業において、児童への指示や説明、フィードバック等を、ICTも活用しながらタイミングよく効果的に行っており、児童の探究に対する意識を高める授業実践を行っている。
6	鎌倉市立第一中学校	メグロ 目黒 シンサク 晋作	総括教諭	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間の授業において、生徒の興味・関心を引き出す活動内容を精選し、実社会の様々な場面で活用できる汎用的な能力を育成する授業実践を行っている。
7	清川村立宮ヶ瀬中学校	モトヤマ 元山 ヨシミ 由美	総括教諭	保健に関する指導	保健に関する指導において、多様な学習活動を効果的に取り入れるなど場面設定の工夫を行うとともに、養護教諭としての専門性が行き届いた授業実践を行っている。
8	南足柄市立足柄台中学校	キドコロ 城所 ヤスコ 康子	総括教諭	保健に関する指導	保健に関する指導において、日々の保健室経営の実態を踏まえながら具体的に伝えることで、生徒が自分事として捉え、深い学びを実現した授業実践を行っている。
9	県立鶴見高等学校	ヨシナミ 善浪 サオリ 紗央里	教諭	外国語(英語)	英語の授業において、単元を通して、聞いたり読んだりしたことを基に、話すこと・書くことの活動に取り組むなど、4技能5領域の言語活動を統合した授業実践を行っている。
10	県立神奈川工業高等学校	オサジマ 歳島 ユウキ 勇貴	総括教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、生徒一人ひとりの学習状況を把握しながら、生徒との対話を通して、生徒の思考力・判断力・表現力等を育む授業実践を行っている。

	学校名	シメイ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
11	県立希望ヶ丘高等学校	イノウエ アスカ 井上 明日香	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、単元ごとに思考を促す問いを示して、生徒の学習意欲を高め、ICTを活用しながら、主体的・対話的で深い学びを実現させた授業実践を行っている。
12	県立川和高等学校	ミヨシ スミヨ 三好 純代	教諭	国語	国語の授業において、文法、読解、伝統文化等の事項について、様々な観点から効果的な発問や課題などを準備し、生徒の思考の流れを止めない授業実践を行っている。
13	県立多摩高等学校	モチマル ユミ 持丸 由実	教諭	家庭	家庭の授業において、ICTを活用した教材の充実や、きめ細かな指導により生徒の理解を促すとともに、生徒同士で意見を交換し、自らの考えを深めることができる授業実践を行っている。
14	県立横須賀工業高等学校	カナザキ ユイ 金崎 悠衣	教諭	公民	公民の授業において、ワークシートを視覚的に捉えやすく工夫して論点を焦点化することで、生徒が調べたこと、考えたことを主体的に表現できる授業実践を行っている。
15	県立藤沢総合高等学校	タナカ サトル 田中 覚	総括教諭	公民	公民の授業において、効果的な問いを示してペアワークを行うなど、習得した知識を活用する場面を設定することで、生徒が理解を深めることができる授業実践を行っている。
16	県立相原高等学校	ヒルタ トシナリ 蛭田 敏也	教諭	農業	農業の授業において、生徒の実態を踏まえて教材を準備・工夫し、生徒が理解を深め、知識や技術を定着させることができる授業実践を行っている。
17	県立みどり支援学校	ヒライシ タケン 平石 武	教諭	特別支援	体育の授業において、生徒の自発的行動を促すよう教材や教具を工夫し、生徒の特性を熟知したうえで展開を計画することで、深い学びを実現した授業実践を行っている。
18	県立平塚支援学校	シマダ ユウコ 島田 優子	教諭	特別支援	図画工作の授業において、児童の実態を踏まえた環境設定や、個々に応じた教材や教具を用意することで、児童がそれぞれの力を生かすことができる授業実践を行っている。
19	県立津久井支援学校	オオタ イズミ 太田 泉	教諭	特別支援	音楽の授業において、児童の表情などを丁寧に見取り、その場面に応じたテンポでピアノ演奏を取り入れるなど、児童が主体的に音や音楽に関わることができる授業実践を行っている。

第2部門 26名（小学校3名、中学校3名、高等学校17名、特別支援学校3名）

	学校名	シメイ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
1	大和市立北大和小学校	マチムラ 町村 リョウヘイ 竜平	教諭	全教科	国語の授業において、ワールドカフェ形式で意見交換を効果的に行い、書くことにつながる話し合い活動を充実させることで、児童同士が気づき、学び合うことを促す授業実践を行っている。
2	秦野市立堀川小学校	ヤスイケ 安池 ツバサ 翼	教諭	全教科	社会の授業において、児童が学習課題をより身近に感じられるよう資料提示の工夫を工夫し、児童が主体的に課題解決に向かう力を育成する授業実践を行っている。
3	横須賀市立高坂小学校	ショウ 正 タクヤ 拓也	教諭	全教科	算数の授業において、児童一人ひとりの実態を的確に把握した上で、児童の力を引き出す授業展開を構成し、児童が自ら課題を解決できる力を養う授業実践を行っている。
4	茅ヶ崎市立第一中学校	フジタ 藤田 ジュンキ 純祈	教諭	社会	社会の授業において、生徒がステップを踏んで理解できるよう教材を工夫し、単元を通して、生徒が思考を深めることができる授業実践を行っている。
5	葉山町立南郷中学校	コウノ 河野 ヒロノリ 紘典	教諭	社会	社会の授業において、生徒が興味を持って取り組む課題を設定し、ICTを活用してグループで情報収集をさせるなど、生徒が主体的かつ協働的に学べるよう工夫した授業実践を行っている。
6	座間市立西中学校	クラサワ 倉澤 カナ 香奈	教諭	保健体育	体育の授業において、生徒の安全や健康面に配慮した声掛けを常に行っているほか、生徒一人ひとりに出番や役割を与え、生徒の主体性を引き出す授業実践を行っている。
7	県立横浜翠嵐高等学校	コマツ 小松 ジュンスケ 駿佑	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、ICTを効果的に活用しながら、視覚的な支援を適切に取り入れることで、生徒の理解を促す授業実践を行っている。
8	県立横浜国際高等学校	イシイ 石井 ミツサダ 光貞	教諭	国語	国語の授業において、まずは個人で考えを整理した上で、ペアワーク、グループワークと、段階を踏んで意見共有の枠組みを広げ、生徒の言語活動が活性化する授業実践を行っている。
9	県立希望ヶ丘高等学校	ハリエ 張江 ユウジ 雄司	教諭	公民	公民の授業において、ICTを効果的に活用した協働的な学びによって、人間と社会の在り方についての見方・考え方を育成する授業実践を行っている。
10	県立釜利谷高等学校	オノ 小野 カナメ 要	教諭	公民	公民の授業において、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、単元の基軸となる問いについて、多面的・多角的に考えることのできる授業実践を行っている。

	学校名	シメイ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
11	県立岸根高等学校	タグチ カズタダ 田口 和忠	教諭	芸術 (音楽)	音楽の授業において、歌詞の内容や旋律に合わせ生徒自身が考える場面を設けることで、思考力・判断力・表現力を育む授業実践を行っている。
12	県立横浜修悠館高等学校	オオサワ コウスケ 大澤 浩祐	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、ICTを活用し、どの生徒にもわかりやすく資料を提示するなど、教材や指導計画を工夫し、生徒が知識を定着させることができる授業実践を行っている。
13	県立生田高等学校	シムラ タクヤ 志村 拓弥	教諭	理科	理科の授業において、グループワークを適切に取り入れながら、生徒が理科を学ぶ意義や有用性を実感し、主体的に学習に取り組む態度を養う授業実践を行っている。
14	県立麻生総合高等学校	イノウエ シンゴキ 井上 重幸	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒の実態に応じた学習活動の内容及び展開を計画し、生徒が自分の意見を英語で発表する機会を多く取り入れた授業実践を行っている。
15	県立七里ガ浜高等学校	オオガ ニュウスケ 大鋸 雄介	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、ICTを活用し、他の生徒の意見に触れて、表現や考えを広げる場面を作るなど、英語によるインプット、アウトプットの量を増やす工夫をした授業実践を行っている。
16	県立藤沢総合高等学校	トウボ ヨシタカ 東穂 吉孝	教諭	数学	数学の授業において、ICTを、提示や説明時だけでなく、生徒同士の考えの共有においても活用し、対話を通じて数学的な見方・考え方を育成する授業実践を行っている。
17	県立茅ヶ崎西浜高等学校	ナカヤマ タンヤ 中山 達也	教諭	芸術 (音楽)	音楽の授業において、生徒が技能を身に付け、自分らしく演奏するための場面設定を綿密に計画し、ペアワークを組み合わせながら、主体的に取り組むことができる授業実践を行っている。
18	県立麻溝台高等学校	ケダ トモキ 氣田 朋樹	教諭	地理歴史	地理歴史の授業において、生徒が資料を適切に読み取り、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身に付けることができるよう工夫した授業実践を行っている。
19	県立上溝南高等学校	サイ タカノリ 齋 孝徳	教諭	数学	数学の授業において、ICTを効果的に活用し、問題解決のために、協働的に思考力・判断力・表現力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養う授業実践を行っている。
20	県立上鶴間高等学校	ソウマ タカヒコ 相馬 臣彦	教諭	情報	情報の授業において、体感や経験を通じて学びが深まるよう、教材準備や授業構成を工夫し、生徒が自分で考えながら学習を深めていくことができる授業実践を行っている。

	学校名	シメイ 氏名	職名	教科等名	授業実践等の概要
21	県立伊勢原高等学校	タカハシ ヨウジ 高橋 航二	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、生徒の実態に合わせて板書や教材提示の方法を工夫したり、英語使用の動機付けを十分に行ったりするなど、生徒一人ひとりに寄り添った授業実践を行っている。
22	県立海老名高等学校	コバヤシ ショウペイ 小林 峻平	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、4技能5領域の言語活動を複合的に取り入れる工夫をするとともに、協働学習を通じて生徒同士の理解と深い学びを促す授業実践を行っている。
23	県立座間高等学校	オオイシ ツヨシ 大石 剛	教諭	外国語 (英語)	英語の授業において、ゴールタスクに向けた学習内容が様々な活動を通して学べるよう教材作成を工夫するとともに、生徒が英語を使う場面を多く取り入れた授業実践を行っている。
24	県立みどり支援学校	オサダ トモヒロ 長田 知大	教諭	特別支援	情報の授業において、音声機器の活用など、生徒一人ひとりの実態に応じた支援をするとともに、環境設定の工夫により、生徒が主体的に参加することができる授業実践を行っている。
25	県立平塚支援学校	イトウ ナズナ 伊藤 なずな	教諭	特別支援	美術の授業において、五感が刺激される仕掛けを取り入れ、個々に応じた教材を使用することで、生徒が自分なりの方法で活動し、表現することができる授業実践を行っている。
26	県立岩戸支援学校	オオコウチ ワタル 大河内 渉	教諭	特別支援	体育の授業において、音楽やICTを効果的に活用した分かりやすい指示や、生徒の特性に応じた教具を用意することで、生徒が達成感を感じられる授業実践を行っている。

令和5年度神奈川県優秀授業実践教員表彰 制度の概要及び審査経過

1 制度の概要

(1) 趣旨

教員の人材育成施策の一環として、学校教育における授業実践に優れ、教員の模範として推奨すべき者を表彰し、顕彰するとともに、教員全般の意欲及び資質能力の向上に資する。

(2) 導入年度

平成19年度

(3) 対象者

県立学校及び市町村立学校（横浜市立、川崎市立、相模原市立の学校を除く）の総括教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭及び常勤講師

(4) 表彰候補者の基準

優れた授業の実践が顕著な者（教科指導、特別支援教育に関する指導、保健に関する指導、食に関する指導等）

(5) 部門の内容（表彰する年度の4月1日時点）

第1部門：総括教諭又は教職経験10年以上かつ35歳以上である者

第2部門：教職経験10年未満又は35歳未満である総括教諭ではない者

2 審査経過

- ・ 4月：市町村教育委員会及び県立学校長に対し推薦を依頼
- ・ 5～6月：県教育委員会に推薦書を提出
- ・ 6～8月：各所管機関において、表彰候補者に対する授業観察及び予備審査を実施
 - ・ 市町村立学校：各教育事務所、横須賀市教育委員会
 - ・ 県立学校：高校教育課、保健体育課、特別支援教育課
- ・ 8月：審査会の実施
- ・ 9月：審査会（座長：教育局長）の意見具申をもとに教育長が被表彰者を決定

3 被表彰者数

表彰年度 部門 校種	令和元年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門	第1部門	第2部門
小学校	4	5	3	3	7	3	5	3
中学校	5	2	4	4	2	1	3	3
高等学校・ 中等教育学校	9	14	11	18	10	11	8	17
特別支援学校	5	5	1	3	1	6	3	3
合計	23	26	19	28	20	21	19	26

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、休止とした。

※ 令和5年度被表彰者の年齢等内訳（令和5年4月1日現在）

年齢構成	20代	30代	40代	50代	合計
第1部門 平均年齢：43歳 平均教職経験年数：17年	0	9	6	4	19
第2部門 平均年齢：33歳 平均教職経験年数：7年	6	16	4	0	26
合計	6	25	10	4	45

4 被表彰者の活用（令和4年度被表彰者の実績）

(1) 校内や校外の教員に対する積極的な授業の公開

被表彰者に対し、各学校の校内で決まった期間に相互に授業を見学する機会や、初任者研修の他校訪問などの機会を積極的に活用し、1年以内に授業公開を1回以上行うことを義務付けている。

ア 授業の公開の実績（令和5年10月10日時点）

(ア) 校内向け又は校外向けに行う授業の公開

	校内向け公開	他校向け公開	全ての授業の公開
実施総回数	155回	34回	189回
指導案を作成する	38回	17回	55回
指導案を作成しない	117回	17回	134回
参観総人数	937人 参観	539人 参観	1,476人 参観

(イ) 被表彰者一人あたりの平均実施回数及び1回あたりの平均参観人数

	小学校	中学校	高等学校・ 中等教育学校	特別支援学校	全校種合計
一人あたりの 平均実施回数	6.1回	10.0回	5.8回	1.5回	5.7回
1回あたりの 平均参観人数	9.3人	15.1人	4.8人	11.2人	7.8人

イ 主な活用の結果、感想等

- ・ 授業公開により、他教員の授業に対する意識が刺激され、授業力向上に良い影響を及ぼしている。被表彰者本人も更なる授業力向上に尽力しており、本校の授業の活性化に貢献している。
- ・ 授業を参観した教員は、被表彰者の授業から、ICT端末の活用や演習の手法等を学び、

自らの授業づくりに役立てている。

- ・ 同一教科のみならず、他教科の教員も被表彰者の授業を参観したことにより、校内で他教科の授業参観が日常的となり、表彰が組織的な授業改善に資することとなった。

(2) 教員研修等における講師に係る実績

総合教育センター等が実施する研修等に、毎年、一定の被表彰者の活用を義務付けている。

ア 基本研修における講師（5名）

- ・ 内 容 模範授業、実践報告、講義、協議、演習
- ・ 受講者 62名（国語）、55名（数学）、25名（外国語）、262名（特別支援）

イ フレッシュティーチャーズキャンプ（新規採用予定者研修）における講師（1名）

- ・ 内 容 実践報告
- ・ 受講者 ※令和6年2月23日実施予定のため、現時点で受講者数は未定

5 今後の予定

- ・ 11月10日（金） 表彰式 神奈川県庁本庁舎3階 大会議場 16時15分～17時00分